

IATSS三十周年によせて

## IATSSによせる想い

西田通弘 本田技研工業(株)顧問



1950年本田技研工業(株)入社。80年副社長を退任し、現在顧問。(財)国際交通安全学会副会長を経て、現在顧問。藍綬褒章、警察協力章を受賞。日本自動車殿堂の殿堂入り拝受。経営者対象の講演活動、執筆活動に従事中。

当財団設立三十周年を迎えましたことを心からお喜び申し上げます。

私が、この財団の設立準備委員会代表として、具体的な準備に入りましたのは、1973年(昭和48年)でした。

この構想は、1970年(昭和45年)10月ホンダの社内組織として発足した、ホンダ安全運転普及本部と深い関わりがあります。

当時は、わが国の交通事故死者数が最大に達し、非常事態と叫ばれておりました。

ホンダは、早くから、鈴鹿サーキットの交通安全センターに於いて、警察庁の白バイ隊員、大口ユーザーの郵政職員、電力会社社員などを対象として、安全運転教育訓練を実施しておりましたので、これを、基礎として拡大し、すべてのドライバーを対象として、事故を減らすための安全運転普及活動を開始しました。

しかし、一般のドライバーの方々に、納得できる魅力のある教育内容、教育カリキュラム、利用しやすい教育器材、設備作りをするためには、警察庁をはじめとする諸官庁、多くの分野の学者、専門家のご協力を得て、理論的、科学的な研究調査や事故分析などが不可欠であることを痛感いたしました。

そこで、これまで交通や交通事故の研究に携わっておられた専門分野の先生だけではなく、これまで交通問題にはまったく関わりがなかった分野の先生方にも、この財団へのご参加をお願いしました。

そして、交通問題の解決に多大な関心を持たれていた本田宗一郎、藤澤武夫両氏から多額のご寄付を戴き、警察庁所管の財団法人として、大蔵省からは研究財団に認可していただき、スタートすることができました。

財団の基本方針として、明確な理念を掲げ、研究調査活動として、学際性、国際性、実現性を強調いたしました。いずれも、見事にすばらしい成果を上げていただいていることは誠に嬉しいことです。

また運営方針として、会員の定員制、定年制を設けていることは、一般の財団にはほとんど見られない画期的なものと思います。学者や研究者は、一般には生涯現役として活躍されておられる方が多いと思います。それをあえてこの制度に踏み切ったのは、激しい変化の時代に対応するために、先輩の先生方には人材育成のために努めていただき、若い研究者の積極的な参加を望んだからです。

その結果、本財団が優れた学術団体として、高く評価され、当学会への入会を誇りに感じていただけることになりました。諸先生の生き活きとした意欲に満ちた活動には目を見張るものがあります。

本財団が社会のために役立つ存在として、さらに大きく発展されることを期待しております。